

HSE リスク・シーキューブ 第4回 理事会 議事録

日時：平成19年12月13日（木）13時30分～17時

場所：東海村合同庁舎 304会議室

出席：谷口，佐藤，土屋，小宮山，清水，中村

陪席：武藤

1) 12月10日現在の会計報告

土屋副代表理事より、12月10日現在の会計報告が紹介された。リスクコミュニケーションの講演や研修はNPOとして受けており、それらの講演料収入により現時点では多少の余裕がある。最大の支出項目が租税公課であることについて質問や意見が出された。(租税公課については自治体に免除制度があるものの、免除を受けると収益事業ができないため、第2回総会において収益事業を行うことが決議されている。)

2) 東海村支部の今後の活動予定および東海村からの委託事業について

土屋副代表理事より、東海村より打診されている委託事業案について説明があった。東海村が計画する原子力広報活動のうち、①一般住民への広報活動として公民館講座の年間実施と②原子力事業所との意見交換会の実施を請け負う案が紹介された。

①公民館講座案について

提案内容は、年間8回の講座を原子力対策課の施策として公民館で実施すること、これまでのようなテーマを決めた講座ではなく、原子力をとりまく問題も含めた講座とすることである。

【議論の内容】

- ・個別の話ではなく、大きな国の計画として枠組みを理解することは重要。今回の企画はよいと思う。講師には原子力以外の人が必要ではないか。
- ・ベースとなる教育は大事だと思う。また、「自分で分かった」と納得することも重要。公民館講座を継続的にやっていくのは東海村の住民にとって重要。
- ・前回理事会では公民館講座をやめることを議論したが、皆さんの意見で継続した。現在は、公民館がバックアップしてくれていて、さらに原子力対策課からの支援も出てきたので、続けていてよかったと思う。
- ・誰の話を知りたいか？ 原子力の必要性を強調する必要はないのではないか？ いろいろなものを見方を理解してもらうことが重要ではないか？ 国からの話がよいか、学者の第三者的な話がよいか？
- ・自分は原子力に対しては中立な立場である。必要だと思うが、疑問もある。中立的な人の話が聞きたい。また、国の計画がどこまで決まっているのかも知りたいことである。
- ・12月に行った公民館講座では放射性廃棄物処分の新しい技術開発について説明があったが、アンケートによれば技術の可能性だけでなく技術開発の課題も率直に示されたことが「よかった」と評価されている。課題も述べてくれる講師がよいのではないか。
- ・プルサーマルについて反対と推進の立場の話を知りたい機会があるとよい。
- ・様々な意見を広く聞くことが重要だろう。また、原子力をめぐる広い動きを見せることは重要

だと思う。

- ・現在行っている高レベル放射性廃棄物の問題について、自分自身は量的には問題ではないと思っているが、産業廃棄物など他の廃棄物も含めた全体の話の中で説明してほしかった。
- ・問題意識はよく分かる。そもそも講座はリスクの考えを広めたいと思って提案した。環境リスクとの比較も重要だろう。
- ・講座の受講者数が回を重ねるごとに減っているように思う。減らないような話題を選ぶべきではないか。
- ・参加者数は確認しているのか？ 人数変化の影響を与える要因を把握して、プログラム案を考える際に考慮すべき。

(この後、具体的に聞いてみたい内容について議論し、以下のような案が提案された。)

基礎編として

- (新) エネルギー技術の今後 (化石燃料利用技術、再生可能エネルギー技術を含む)
- 地球環境問題とエネルギー事情
- 放射線の基礎 (人体影響・医療関連)
- 東海村の原子力の現状と将来計画 (どのような事業活動が行われているかの説明を含む)

原子力技術の全体像、それらのリスク問題

テーマ編として

- 災害時の対応
- 耐震
- 地層処分
- プルサーマル

- ・基礎編を充実させ、テーマは1つか2つにしぼる方がよい。
 - ・常陸太田市でもポツポツと講座をしているが、体系的ではない。ひとつひとつは面白い。東海村の講座は体系的に学べるものにして継続すべき。
 - ・基礎編の中には1回では十分消化できない幅広い内容もあるので、2回に分けるなど基礎編を充実し、テーマ編は1つか2つにするとよい。
 - ・東海村の各施設の安全対策について各事業所から説明を受けるのも面白い。人材育成やヒューマンエラー対策、技術継承問題などへの取り組みを相対化して聞くことができる。
 - ・東海村の事業所の内容は受講する人の知りたいことか？
 - ・個人的に知りたいこと。
 - ・受講者の立場にたってプログラムは検討したい。
 - ・最終回に村長との座談会を企画してはどうか。今後の東海村について意見交換する場を設けるとよい。
 - ・対象者は、関心をもって継続的に参加する人である。しかし、個人的には地域の活動の中心になっているような人に声をかけたい。
 - ・今後はすべての講座を受講した人に認定証を出してはどうか。
- ★ 理事会での議論を踏まえて、谷口・土屋で講師も想定しながら、企画案を作成することになった。

②事業所と住民（代表）との意見交換会について

意見交換会の対象者は自治会班長で、東海村支部の視察プログラムの簡略版のようなものである。見学会の後、しっかり議論する時間を設ける。しーきゅうぶは準備と意見交換会の場の記録作成を請け負う。

【議論の内容】

- ・しーきゅうぶがもっと役割を果たすべきではないか。
 - ・話のきっかけとして、しーきゅうぶの視察結果を紹介してはどうか。それによって、何でも言っ
てよいという雰囲気ができるのではないか。
 - ・あまりしーきゅうぶの活動を宣伝することを考えていなかったが、視察の商会はいいかもしれない。
 - ・進行役以外にしーきゅうぶから関わる人数を1名ではなく2名に増やしてはどうか。
- ★ 参加者の意向を重視するという基本方針に基づき、事業所との話し合いを通じて詳細を検討することになった。

3) 会員拡大に関する12月定例会の議論の紹介と議論

土屋副代表理事より、12月定例会で会員問題について議論した結果が紹介された。結論として、しーきゅうぶの活動を継続するために次世代メンバーを確保する必要があるものの、単に人数を増やせばよいという問題ではなく、今後さらに活動を知ってもらうことが必要ということになった。

- ・若い人を入れることが重要。大学生ならホームページなどの更新も簡単にできるだろう。例えば、2月の茨城大学と東海村の市民講座でリスクコミュニケーション活動紹介を依頼されているが、その際に学生に参加を呼びかけてはどうか。
- ・リスクコミュニケーションの講義なので、あまり特定の団体の宣伝にならないようにしたい。講演の最後に少し触れる程度ならできるだろう。
- ・会費のシステムに入会金があるが、これはなぜ必要なのか？
- ・活動維持のための寄付金という意味合いがあった。会員は、予算確保というだけでなく、活動を続けるための会員や、活動を支援してくれる会員も必要。支援者を増やす努力が必要だろう。
- ・学生にとってはかなりの負担になる額ではないか。
- ・学割制度を作ってもよい。
- ・入会金は学生以外の人にとっても負担を感じさせるものかもしれない。
- ・入会金問題は総会で決議する問題なので、来年の総会に向けて検討したい。